

●論壇

交通安全の研究で世界に寄与しよう

藤井 澄 二*

Contribution to the World by Traffic Safety Study

Sumiji FUJII*

昨年10月末から11月初めにかけて開催された日本機械学会の国際シンポジウム「力学的災害からの人間の防護」(略称HOPE)に附随した行事のひとつとして、筑波にある財団法人日本自動車研究所の見学が行なわれ、数人の外国代表もこれに参加したが、その中のひとりである西ドイツのハノーバー工科大学のハインリッヒ・ユプトナー教授は雑誌「コンストラクチオン」に会議の報告を寄稿し、この研究所について次のような感想を述べている。「この研究所の研究活動の広さは驚くべきもので、良く知られた工学的研究のほか、行動心理学的研究や動物実験なども行なわれている。また討論の際に開放的であったことも驚くべきことである。安全工学上の研究と開発とは、日本の全自動車産業によって支えられたこの研究所では、企業間の競争の目標としてではなく、共通の課題とみなされている」

私はこの文章を読んでたいへんうれしく感じた。企業の直接の利益にもならず、企業秘密にもしない形で安全の基礎研究が、日本の自動車産業によって支えられていることが、はっきりと認められたと感じたからである。そしてまた、日本が多数の自動車を生産し輸出しているからには、ただ売るばかりではなく、自動車社会の安全の研究という面でも、日本の社会にも、また世界にも、大きく寄与する責任があることをさらに強く痛感した。

日本自動車研究所で力を入れている安全のための基礎研究のひとつに、人間の衝撃耐性の研究がある。衝突時の乗員の安全を図るための自動車の設計には、衝突とその人体への影響との関係が良く分かっていることが望ましい。従来はこのようなデータは主としてアメリカ合衆国における研究に依存していた。しかしこの問題にはまだ未知の点が多く、また安全の問題を事故によって負傷した人々の治療の問題にまで広げて考えるならば、衝突による傷害の発生の機構や、生死を決定する因子の解明などの研究にまで手を広げることが必要である。日本自動車研究所ではこの問題に関し、医学者と工学者とから成る大きなチームを編成し、運輸省からの補助金と多額の自己資金とを投じて数年来研究を続けている。そして最近にこの問題について曙光を見出すに至ったという。あと数年この研究を続けるならば、この問題について大きく世界に寄与することができるかもしれない。

この国際交通安全学会も、日本自動車研究所と同様に、交通安全の研究を推進し、これによって世界に寄与することを目的として作られたものと思う。わが国においてこのような分野が重視され、推進されて大きな成果をあげ、世界に寄与するようにしたいものである。

*東京大学工学部長
Dean, Faculty of Engineering, Univ. of Tokyo
原稿受理 昭和53年4月18日